

## 平成 30 年度第 1 回魚沼市男女共同参画推進委員会 会議録

日 時	平成 30 年 8 月 1 日(水) 13 時 30 分～15 時 05 分
場 所	小出ボランティアセンター2 階 研修室
出席者	<b>【委 員】</b> 山本英二会長、貝瀬直子副会長、石川伊織委員、金子富美子委員、井口由紀子委員、富永洋介委員、齋木富美子委員 <b>【事務局】</b> 企画政策室 吉澤室長、佐藤係長、五十嵐係長、櫻井主事 <b>【庁内推進委員】</b> 総務管理室 和田係長、まちづくり室 阿達係長、市民生活室 高橋係長、介護福祉室 塩川保健師長、健康増進室 櫻井主任、商工振興室 吉田係長、学校教育課 松井副参事、生涯学習課 星主任、子ども課 齋藤子育て支援センター長

### (会議の要旨)

#### 1 開 会 (13:30)

3 番の議事までは企画政策室の吉澤室長が進行を行う。

#### 2 委員及び事務局紹介

委員名簿をもって紹介に代えさせてもらう。井口委員は、今回初めて。

事務局については、名簿のとおり。富永課長については、職員採用試験の試験官のため欠席。庁内推進委員も同席させていただいている。大羽賀係長、遠藤主任、富永室長が欠席。

#### 3 議事

(会長) 先日、LGBTの方に対して生産性がないという発言をした市議がいて問題となった。私たちは、男女共同参画社会の実現に向けて取組んで行こうということで集まっている。このことに対してどうしたら良いか、自分の中で日頃から考えているわけではないが、こうした議論に関わることで、少しずつ世間の間違った常識が剥がれていくと感じている。

しかし、今回の事件のように、社会の中には、まだまだ残念な考え方を持っている方がおり、相当、長期にわたる取組が必要だと改めて思い起させられた。

男女共同参画社会とは、突き詰めて考えれば、私たち一人一人が、自分らしさを損なわないような社会にしようというものだと思うので、そうした観点から、平成 29

年度の実施結果と平成 30 年度の事業計画について、忌憚のないご意見をいただければと考えている。

まず、議事 1 の平成 30 年度事業実施計画について事務局から説明をお願いしたい。

**(委員)**

これは順番が逆ではないのか。平成 29 年度の結果報告をし、その総括に基づいて、平成 30 年度の計画ができるはず。

**(事務局)**

平成 30 年度の計画については、昨年 2 月の会議で行った積み残しということで考えており、本日は、そちらを先に行ってから平成 29 年度実施結果の報告という順番で考えている。

**(委員)**

今回送られてきた書類を見て同じものが 2 通届いたと思った。書いてある文章がほとんど同じだが、これはどういうことか。

**(事務局)**

平成 30 年度計画については、昨年 2 月の会議で一度出している。そこでいただいたご意見を基に修正を加えて今回の会議と一緒に提出するというので、前回の会議は一旦閉会したととらえている。

**(委員)**

では、なぜ、平成 29 年度結果報告と平成 30 年度の計画の文言がほとんど同じなのか。平成 29 年度で過去形になっているものが、平成 30 年度の計画で現在形になっている以外、違いがほとんど見られない文章ばかりで出来上がっているのはどういうことか。

**(事務局)**

事業一つ一つを見ると、そうだけではないと認識している。

**(委員)**

具体的に何をやるかについて計画に書かなければいけないのではないか。それが、昨年やったことと同じ文章にしかならない。

**(事務局)**

平成 30 年度の計画を(前回の会議で)先に出したという順番になる。

**(委員)**

ということは、平成 30 年度の計画を基に平成 29 年度の結果報告を作成したということか？

**(事務局)**

そういうことではない。

**(委員)**

今回議論する順番は逆ではないのか。平成 29 年度までにどこまでやれたのか、平成 30 年度には何をするのか、平成 29 年度までの達成状況をプラスどれだけ上乗せて

きるのかが話の持って行き方だと考える。つまり、平成 30 年度に何をやるのか、これを見る限り、平成 29 年度の内容をただやっていることになっている。

平成 29 年度の反省を基に平成 30 年度に何を行うかが示されていない。ということは、ルーティーンワークをこなすだけ。役所にはやる気がないということにならないか。少なくともそのように思われる文章を書いてはまずいのではないか。

#### (事務局)

平成 29 年度の実施結果は、平成 31 年度に反映することとなっている。

#### (委員)

ここでは、平成 29 年度の総括が遅れていて、平成 30 年度の計画が平成 28 年度の実施結果に基づいて昨年度中に出来上がらなければいけないものが遅れているということかと思う。それならば、平成 29 年度の総括がどういうものになっているのかは、平成 30 年度とは切り離して総括されていなければおかしい。文面がほとんど同じということはどういうことか。

手元に長岡市の同様の書類がある。この構図がどのようになっているかという、長岡市は、平成 33 年までの計画であるが、平成 29 年度から平成 33 年度までの各年度に計画と成果（実績）が併記されている。

現状では、平成 30 年度の計画まで書かれている。

平成 29 年度の結果を踏まえて平成 30 年度の結果が書かれており、それ以降はまだ無いので空欄になっている。

こういう書類を作ることで、結果的に何が分かるかということ、「これまで何を行ってきたからこの結果がある」ということが分かる。

魚沼市は別々に書類を作っているので、結果的にこれが見えない。

並べてみると、文言が同じになっている。平成 29 年度の項目に「取組内容」と書かれていてこれは良いが、平成 30 年度と同じ項目は、「取組内容」ではなく、「計画」のはず。それぞれの項目に内容をただコピーペーストして貼り付けただけのようには見えない。そうでないのなら、平成 30 年度は、項目を「計画」として、何を行うのか具体的に書いてほしい。それが全然ない。

私は、長岡市に対してこうした表を作るように 5 年かけてずっと言い続けてやっと出来てきた。皆さんの常識ではこんなこと考えられないかもしれないが、これをやらないと市民には、どこまで何をしたか、次に何をすることが全然見えない。

だから、この書類を見たときに、なぜ文章が一緒なのかびっくりした。

成果と目標又は計画を書き分けるところを、どちらも「取組内容」となっているところは、これは何なのか。ただのコピーペーストではないのか。これではまずい。

#### (事務局)

当然のことながら、ただ、コピーペーストして年度だけを変えたということはある得ない。

**(委員)**

文章が一緒である。

**(事務局)**

内容が全く変わるという事業ばかりではない。

**(委員)**

だから、昨年何を行ったから今年は追加で何を行うとか、具体的にどこで何を何回行うのかが、ここに書かれなければならない。昨年をなぞっただけではないのか。

**(事務局)**

石川委員と事務局とだけの問答でもどうかと思うので、会長から他の委員からのご意見もいただけないか。

**(会長)**

今回は、このような進行になるという話は事前に聞いており、私の受け止め方としては、時間の配分を平成 29 年度の成果を皆さんでどのように見ているのかということに時間を費やしたいということと認識している。

平成 30 年度の計画について、昨年度いろいろと審議して手直しが必要となって、最終的に手直しがされたものが本日出てきている。

**(委員)**

私が見ている限り手直しがされているところは、目標としてあげるべき数値が違うところがあり、その目標値の項目を修正しているだけ。他は何も変わっていない。これで良いのかという話。

昨年度の問題をどのように解決するのかどこにも語られていない。(平成 30 年度の計画を立てるのに) 平成 28 年度の結果をベースとしているのであれば、その結果を踏まえて今年このようにやるという計画になぜならないのか。

**(事務局)**

それを反映したものが平成 30 年度の計画となっている。

**(委員)**

全くそのようになっていない。なっているとすれば、なぜ、平成 29 年度と内容が一緒になるのか。平成 30 年度の計画をベースに平成 29 年度を書き直したということなのか。そうでなければ、文章が同じになるわけがない。

だとすれば、平成 29 年度の結果の文章は改ざんであり事実と違う。これは大問題だ。過去形が現在形になっているだけで、こんな文章を出してはいけない。

**(会長)**

実施計画、実施結果について、これまでの審議の中で、不十分ではないかという意見を皆さんからいただいて、修正することになった。

また、事務局の検証の仕方や指標の設定の仕方も不十分だということがあり、平成 30 年度の計画について一部修正されたが、審議をする中で更に不十分だということになった。

こうした平成 30 年度の修正内容を踏まえて、平成 29 年度の結果をまとめるときに見方を反映させたのではないかと受け止めている。

**(委員)**

書いてあることがまるで一緒ということはどうなのか。

平成 29 年度こうだから、平成 30 年度こうしようということでなければおかしい。

**(事務局)**

平成 30 年度の方が先にできている。

**(委員)**

そうだとすれば、平成 29 年度の行った成果について平成 30 年度の計画に合わせて書き直したということか。

**(事務局)**

成果そのものを書き直したということは当然ない。

**(委員)**

だったら、なぜ文章が一緒なのか。説明できていない。文章が同じなのはおかしい。なぜ、同じことをおかしいと思わないのか。年度ごとに記述が違って当然のこと。長岡市は現に違っている。それができないのはおかしい。

順序が違う。平成 29 年度が正しいのであれば、平成 30 年度を平成 29 年度に合わせて書き直した。平成 30 年度が先にできているのであれば、文章が同じなのだから平成 29 年度を書き直している。同じになる訳のないものが同じになっているのだからおかしい。

**(事務局)**

記述の仕方や書き方のレベルでは合わせているところはある。

**(委員)**

合わせてはいけない。だったら、なぜ正しい数字や文章を出さないのか。

**(事務局)**

数字は、当然ながら手を加えていない。

**(委員)**

それならば、なぜ平成 30 年度と同じ数字が出ているのか。

つまり、平成 30 年度には、何をどれだけやるかという数値目標が出ていない。

それは、昨年度の数字をなぞっただけで出ている。

例えば、最初のページの地域公民館講座教室事業について、取組内容を比較すると、順番は変えてあるが、「子育てパパママ教室」7 回、「料理教室」4 回が一緒になっている。「目からウロコの簡単和食」が新しく平成 30 年度から付け加えられているが、「子育て教室」4 回等、全部同じようなものではないか。

**(事務局)**

違うことは違っている。

**(委員)**

何をどれだけやったから、事業を付け加えるのか書かなければ、説明にならない。ただ違うではなく、何のために違う事業を入れるのか、また、何のために昨年あったものを削るのか、その理由を書かなければならない。それをしないまま、これを一般市民に見せて分かるというのは無理がある。

**(事務局)**

平成 29 年度の結果は、平成 31 年度に反映される。

**(委員)**

それであれば、平成 30 年度を見るためには、平成 28 年度の結果を持って来なければならない。平成 28 年度の資料はもらっていないのはおかしい。

**(会長)**

話を整理すると、これまでの経過が、この資料では分からない。経過を踏まえて今後どうするかという計画になっていないため、この資料では分からないので、作り直した方が良いということかと思う。

**(委員)**

この資料が、なぜ、会議開催前の一週間前に渡されたのか。

**(事務局)**

平成 30 年度については、前回の会議で一度議論が行われており、その際の修正を直して出したということなので、昨年のように事前に質問を受けることを省かせてもらった。

**(委員)**

それをやらなければ、ここでもめるではないか。もめないで済むと思ったのか。平成 29 年度と同じ書類を出して、ここでもめないわけがないではないか。そんなおかしなことがある訳はない。なぜそれをやらないのか。

**(事務局)**

今日の主な目的は、平成 29 年度事業の実績について、これでは効果が足りなかった等、ご意見をいただきたいと考えていた。

**(委員)**

それであれば、なぜ同じ書類を作るのか。文面がおかしい。この内容では、そうした話が全く見えてこない。

**(会長)**

その部分の話を整理すると、石川委員は、平成 29 年度と 30 年度の書き方がほぼ同じだと言っている。しかし、事務局は、書き方は揃えたという話があったが、それは今までの会議を受けて視点をきちんと確立したいということや、指標を変えたほうが良いものが多いことから、指標を変えてそのうえで検証しようということで、書き方を揃えたということ。

問題なのは、実施する内容が変わっていないということも石川委員が言っているが、そこについては、結果として変わっていないのか、本当に変わっていないのか、

その点についてはどうだったのか。

**(委員)**

昨年実際に使った決算見込みよりも、今年度の予算が少ないのはなぜなのか。そう  
いった項目がたくさんある。予算の説明ができていない。これで、平成 29 年度の何  
を総括するというのか。「平成 30 年度にすべて反映しているので、これで良い。」と  
いうことにしかならない。

**(事務局)**

平成 29 年度の結果の反映は、予算上のサイクルとしては、平成 30 年度ではなく、  
平成 31 年度にするという説明はしたとおり。

**(会長)**

平成 30 年度は、すでに予算も決まり事業の組み立ても決まっていることは事実で、  
そこについて、予算を増やせということは、補正では対応できるかもしれないが、制  
約もある。そもそも、平成 29 年度と 30 年度の事業がほとんど変わっていないのでは  
ないかということのを石川委員は問題にしている。

その事業の組み立てについて、それぞれの部署では、計画段階でどのようなことが  
あったのか記載が無いと、これまでの議論があまり計画に反映されていないように考  
えられるということだと思う。

**(委員)**

基本的には、今年の成果である平成 29 年度の結果と、平成 28 年度の成果に基づい  
て作られた平成 30 年度の計画が同じということはおかしい。どう見ても、出ている  
項目も指標を変えている以外はほとんど変わっていない。

**(事務局)**

書き方については、先ほどの会長の説明のとおりであるが、内容については、事業  
にもよるが、福祉系の事業だとしたら、それほど毎年内容が変わるわけではないこと  
もありえること。同じということはそういったことだと認識している。

**(委員)**

参加者が減ったのであれば、それをどうやって挽回するかについて計画を立てなけ  
ればいけない。それについて、平成 30 年度の計画は何も触れていない。そんなこと  
があつていいのか。何のためにこの会議をやっているのか。結果を踏まえて、それを  
改善する方策について考えるためにやっているのではないか。

それであれば、何をするか書かなければならない。数字が減ったことをどのように  
解釈して、どのように挽回するのか、それぞれの部署でどのような計画を立てて、何  
を行うのか書かなければまずいのではないか。

**(委員)**

各課でこの内容を精査するとき、実際に課内で会議を行っているのか。

**(事務局)**

内容については、担当者から上司に向けて決裁をとるだけのところもあるし、実際

に会議を設けているところもある。更に外部の委員も含めて会議を行っているところもある。

**(委員)**

具体的に、平成 29 年度の事業番号 01 の教育委員会の事業について、教育委員会では、平成 29 年度と平成 30 年度の文章を作る時に、どういった経緯でこの似た文章の案を作ったのか、具体的に説明してもらえるか。なぜこういうことになったのか。

例えば次の家庭教育事業は内容の違わない文章を結果の方に書いている。なぜこういうことになったのか説明してほしい。

**(事務局)**

個々の講座の内容に深く踏み込んだ説明をもととしていないので、親子で参加できる講座を開催するという点については、毎年変わらない。

**(委員)**

だから、そのためにどんな講座をしたか書かなければいけないのではないか。これからどんな講座を行うのか書かなければダメではないか。日にちがすでに決まっているのであれば、平成 30 年の計画に書かなければダメではないか。

**(事務局)**

子ども育み講座であれば 3 回、幼稚園・保育園 P T A 保護者会学習支援事業であれば 4 回と書いてある。そこまでの記載が必要か。

**(委員)**

必要である。長岡市では記載してもらっている。それがなければ計画にならない。

それが無ければ、平成 30 年度は同じことが書いてある。だから、どちらかがどちらかをコピーペーストしたのではないか、どういう会議を行ったのか質問される。

先ほどの質問の続きで、事業番号 01 の教育委員会の事業についてどういった経緯で文章が同じになったのか説明してほしい。

それは、事務局からの指導で同じ文章にするように言われたのか。

**(生涯学習課)**

生涯学習課の事業については、範囲や対象者も広く、特に、親子や幅広いいろいろな講座がある中で、男女共同参画にマッチするものは何かということ、ここに掲載している。

そうすると、どうしてもある中での講座となると、毎年、同じような事業の拾い方になっている。

新しい講座をとということになると、書き方が足りなかったのかとを感じるが、いつ、こういった講座を開催するかということまでは、書くというように指示されていたわけではないので、年に何回という程度の記載になっている。

**(委員)**

次年度から、いつ、どこで、何をを行い、参加者が何人だったかという数値を全部あげてもらって結果報告書を書いてもらえないか。全ての課に対して。



それをしなければ、何もわからない。

**(事務局)**

この計画に対する実績報告については、第2次の計画の際も含めて、そこまでの記載を行ってこなかったことは確かである。

これとは別に、市では行政評価を事務事業ごとに行っており、それには、1シートに1事業の内容が詳細に書かれており、それは別に作成している。

それをそのまま提示することは可能だが、今のところそこまで行っておらず、行政評価においても「いつ」、「どこで」というところまでは記載されていない。そのことが無ければ評価ができないということであれば、何とか記載しなければならない。

**(委員)**

何人集まってどれだけの成果があったのかが評価だと考える。男女参加者のそれぞれの数、講座の回数、講師の名前、それが無ければ評価はできない。

**(事務局)**

それを1事業ごとにとということであれば、今日は用意していない。

**(委員)**

それをしなければいけないと考える。これまでの会議で何回も言ってきている。実績には、具体的に何を行ったのか、計画には、これからいつ、どんなことを何回行うのか、目標はそれぞれいくつか。それをやらなければ、結果の評価もできなければ、目標の検討もできない。記載の目標値を達成するために、何を行うかをここに書く必要がある。そこで、何人に対して事業を行えばこの目標値が達成できるか、そこにつながりが無ければならない。その結果の評価は、何回、何をやったからこの数値になったという記載になる必要がある。

**(委員)**

石川委員に質問だが、長岡はこういった委員会は何回開催しているのか。

**(委員)**

少なくとも年に1回は必ず開催する。それに対して、事前にこの書類を作成し配布する。計画の策定年度には、2から3回程度開催している。それ以上に開催される場合もある。

**(委員)**

魚沼市の開催は年に2回で、長岡市は2回以上しているということであるが、魚沼市がそこまで踏み込んでやっていないこともあるかもしれないが、市ごとに違っているので、今日、長岡市の事例を紹介いただいたので、自治体同士の横のつながりの中でリサーチしながらやってもらうのも良いのではないかと。

本日の資料の指標は、市の各課の計画の中で、男女共同参画に関連するものを全てピックアップし、それに対する結果を出している。

そのため、出発点の考えが、長岡市と魚沼市との表の作り方では違うのだと考える。長岡市のような考えで作っていけば、今後、PDCAも回っていくので、今後、その

ような流れにしていきたい。

せっかくこれだけの資料を作ってもらったので、行政の手順書や評価表のように使ってもらうには良いが、一般市民が見て良く分からない。そのため、どこが問題で、今回の取組により何が良くなり、何が変わらないから今後どのようにしていこうかという情報の出し方をこの表は表として、別にあれば良いと考える。

委員の皆さんが各団体から選出されているため、それぞれの組織等で困っていることがあれば持ち寄って、近隣市町村のリサーチもしながら、進め方が計画にあっているのか、どこの課が担当なのかを精査しながら事業を行ってもらうようにすれば良いのではないかと。

今回は、この指標を見ながらやるとしても、今後は、長岡市の事例や、委員が所属するそれぞれの団体での上手くいっているところ、そうでないところを持ち寄ってもらい、その中から魚沼市でやってみようという取組のテーマを決め、それに対して、どの施策を行えば良いか企画政策課の方で調べてもらい、進めていけば良いのではないかと感じる。

ただ、今、男女共同参画に関連すると思われるものを全てあげているので、こういった感じになってしまっていると思う。

**(委員)**

これは、基本計画が決まっているので、これとこれをやるということではなく、計画にあげられるものは全て事業をあげてもらわなければ困るし、全てやらなければいけないことになっている。

**(会長)**

計画の作り方としては、男女共同参画に関わる全ての事業をまとめたものが必要であるが、それはそれとして、齋木委員の話は、男女共同参画に関わる様々な項目について、魚沼市としては、いろいろとやっているが、そのことがはたして具体的にどのように進展しているのかというのを、計画とは別に議論したいということだと思う。

**(委員)**

公民館事業の開催であれば、例えば料理教室において、女性だけではなく、男性も一緒に子育てすることを目的としている場合、男性からも参画してもらう必要があるため、男性参加者が少ないけれどもどうしようか、といった考え方の流れになっていければ、同じことを書いているのであるが、より分かりやすいのではないかと。

**(委員)**

それは、基本計画の表の中に全部書いてある。その下にぶら下がっているのが、ここに並んでいる。もとの計画の文章を見ればすぐに分かる構造にはなっている。

**(会長)**

この表を見ていて、個々の事業計画はこういうものがあって、それは何のためにやっているのか考えるためには、一つ上の施策の展開や施策の方針、重点目標のところを確認する作業が必要になってくると分かった。

齋木委員のおっしゃるとおり、これだけを見ていても分からなくなることがある。

(委員)

例えば、計画の作りが、まず少子化の状況の中、「子育てをみんなでやりましょう」となっていて、次に「意識啓発しましょう」となっていれば、子育てに関連するもの、意識啓発に関連するものについて、同じ指標でも一緒にやって行った方が分かるのではないか。

(委員)

この計画をベースに見ていくと分かることになっている。

(委員)

分かるのだが、順番に子育てだとか項目を追っていった方が分かる。

(委員)

だから、この計画にはそのことが書いてあって、今の話のように見えるようにできているのがこの計画である。第3次計画の文章を見ながらこの計画を見れば分かるようにできており、系統立てて書いてある。

(会長)

そうなのであるが、慣れないとなかなか分かり辛いところもある。

今何をやっているのか途中で分からなくなることがある。

そういった意味では、計画の審議となると時間も無いし、総花的になるので、もう少し、議論の仕方を工夫する必要があるような気がする。

(委員)

平成29年度に、何を何回どれだけやったのかを、まず詳細な数字と表を出してもらい、その中で、何が上手くいき、上手くいかなかったのかをピックアップしてもらおう。それを、第3次計画の全体の位置づけの中で、上手くいかなかったところに話題を特に集中して行い、全体はここを見てくださいというようにならないと、この短い時間で会議はできない。

全体は、この数表を見て欲しいというためには、ここに具体的に、何月何日に、どこで何回事業を行ったので、参加者は何人で成果はどうだったか書いた表が無いと、全体はこの表を見てくださいと言っても、分からないことになる。それが、ここにはない。

また、議論の中で一番重要なのは、今年はどういった施策が重要だったのか、どういった成果が見られたのか、というところに力点を置いた話をすれば良いのだがそれもない。

そうすると、「こういうことになったので、よろしいですね」ということで、1時間程度みんなで内容を見てもらって拍手をしておしまいとしかならない。

つまり、議論ができない。具体的に何が行われたかも、この数表自体が、何が、いつ、どこで、どういう形で行われ、成果がどうであったか、個別の事業で書かれていないため、それも議論できない。

そのため、平成 30 年度計画に関しても、もっと力を入れてやらなければいけないので、昨年まで 30 回だったところを 35 回にしようとか、ここのところは十分成果が上がっていることから、20 回を 15 回でも良いのではないかという話ができない。

だから、正確な数字と開催日時がしっかり書かれた表を、事業項目すべてに対して、どれだけ膨大な資料になっても良いので作ってもらい、それを委員に 1 か月位前に渡して良く読んできてもらうことが必要。

これを行わないと、役所は何をしているのということになる。何をやったのかも分からないし、これから何をやらなければいけないかも分からないことになる。

#### (委員)

何回か参加しているが、私たちが参加して議論する価値がある会議なのかと思うところがある。

石川委員は、事務的な感じで、細かい作業をしてもらうのは、石川委員と市役所の方とだけで良いのではないかと感じる。

この会議の意味を考えたときに、私たちは男女共同参画がより進むための会議に参加させてもらっているので、何か力になればと思うところもある。

また、市役所の皆さんも色々な毎年事業を行って努力していて、数値をより良くしようと考えていると思うので、これをより活かせるための会議にした方が良いと考えている。それであるのに、最近、会議の意味が分からなくなっている。

会議に参加する際には資料を見てなるほどと思うこともあるし、石川委員の発言も良く分かるが、もう少し違った会議のやり方があるのではないかと感じている。私たちができることは何かと考えながら会議の話聞かせてもらった。

#### (委員)

ここでやらなければいけないことは、こういう話ではない。

文章が同じだという話ではないし、事務局に対応ばかりを求める場所でもない。

しかし、この状況ではどうにもならない。

ここでは、これだけのことをやったから、ここは上手くいき、一方で、ここは上手くいかないからどのようにしようか話をしてもらうのが一番良いが、それを議論する前段階の書類もできていない。

例えば、1 か月以上前に会長や副会長に内容を示し、委員全員にも配って、意見をまとめて、それでどのように実りある会議にするのか計画立ててもらえば良いのだが、まず、この書類自体が、だれが、何を、いつ、どこで、どうやったから、どういった成果があったか分からない書類になっている。

これまで、こういった書類の作り方ではまずいと何度も言ってきたのだが、どうしてしっかりと作ってくれないのか。

しっかりと個別の項目に関して数字を挙げ、いつ、どこで、何を、何回やったか書いてくれと何度も繰り返し言っている。どうしてそのような書類を作ってくれないのか。

**(事務局)**

男女共同参画の事業に限らず、市役所の事務事業の単位では、基本的には内部評価を行っており、外部の委員から評価してもらうところは、もう一段上のその事業がどういった成果があり、施策の推進に効果があったかというような議論を期待しているわけで、この会議もそうあるべきと考えている。

その前段の基礎となる事業成果の開示が十分ではないというご指摘は、真摯に受け止めたいと思っている。今のところ一番詳細な事務事業評価は、先ほどお話しした事業ごとに1枚の評価シートとなっており、それをそっくり男女共同参画の資料として提出することが良いのか、あるいは、その項目ではさらに足りないこともあるように感じられるので、さらに増強して資料を作るのか、それが議論の前提として必要だという話になれば、今、手持ちの資料の中には無い状況にある。

もちろん、過去の内容については調べれば記載は可能であるが、平成30年度については、そこまで作っていないものもあるので、それが無いために、上積みすべき議論ができないということであれば、今日は資料が不足しているということで申し訳なく思っている。

**(会長)**

評価を事務局として下していないということが、なかなか議論をし辛くしているところなのかと感じる。

事務局として、到達度がどこまで行ったのか、どのように総括し評価を下しているのかということが、私たちもなかなかできないし、そのところが提示されると、客観的に見ることができて議論になるのではないかと感じる。

**(委員)**

私もそう思う。誰が何回やったかということよりも、何回かやりたかったが、何回しかできなかったとか、参加人数が少なかったのは、日にちの設定が悪かったのかとか話し合うことが重要だと思っている。

また、そう言ったことを踏まえて、この項目はすごく良く来年続けたいけれど、何が悪かったのか、日程が悪かったのか、広報が悪かったのか、日を変えてやってみようか、そうした話ができるようなところに更につなげられれば良いのだと感じる。

**(事務局)**

これまで、石川委員のご指導をいただいてこの表を細分化していった訳だが、表の右下の説明ところがまさにそうした評価をイメージして作っているところ。

上には実績と目標値があって、その左下には、目標値の根拠が記載してあり、その数字を事務局がどう見ているか担当課と相談しながら、今後どのように進めていくかイメージして作ったが、まだうまく使えていないというように実感している。

また、回数の内訳については、石川委員の発言のとおり、詳細を記載しておらず、その点について資料の提示が必要ということであれば、今後、提出する準備をしなければいけないと考える。

(会長)

最初の頃に比べると説明の部分は、記述が増えてきた印象は受けている。それは、今までの議論の成果なのだと感じている。

(委員)

確かに事務的にはこういった表が必要だと思うが、齋木委員の発言のとおり、噛み砕かれて内容が分かるような資料が欲しいと感じている。

(委員)

説明について、平成 29 年度の実施結果のところ、「目指します。」と記載されているが、なぜか。これは計画に使う文言であって、結果の説明の文言ではない。

(事務局)

これは、事業の計画年度が、平成 32 年度までを想定しているという意味でこのような記載となっている。

(委員)

それは、計画も成果も書式は全く一緒ということか。

(事務局)

今回は合わせた結果、同じになった。

(委員)

それはおかしいと考える。

(会長)

年度ごとの評価というところにつながっておらず、石川委員の言うように少しおかしいと感じる。単年度の評価がどこで行われているか、これでは分からない。

(委員)

例えば、2 つ目の事業を見ると、平成 30 年度は、男性参加者が多く見込める講座の一つを実施しないため、目標値を下げてしていると記載があるが、どういう意味か。男性参加者が多く見込める講座とは何か。また、それをなぜ実施しないのかその説明がない。だから目標数値を下げたとあるが、理由が分からない。

平成 29 年度の成果の方では、実績が 142 名もいるのにも関わらず、何を行わないから目標値を下げるのか。

これは、昨年度末の会議の際にも問題としたが、何を行わないから下がるのか、なぜ男性参加者が多く見込める講座をやらないと決めたのか。それが分かるような文章を作らなければいけない。

(生涯学習課)

書き方が良くなかったと反省している。内容については、毎年、市の P T A の全体会議が行われているが、平成 30 年度については、新潟県が全国 P T A の会場になるため、そちらに参加することとなっており、魚沼市での単独開催はしないこととなっている。そのため、毎年、P T A の集まりで行っていた講座について、魚沼市での開催が無いことに合わせて行わないことになった。

**(委員)**

全国のPTA会議は毎年行われるのか。

**(生涯学習課)**

何年間に一回、各県に順番で周っているもの。平成30年度は、新潟県に当たっているのに、魚沼市では行わないというもの。

**(委員)**

それは、男女共同参画に何の関係があるのか。

それに、男性参加者が多く参加する会だから、男性参加者の数が稼げるという話だとすると、それは変である。

男女共同参画と関係ないのに、男性がたくさんいる会だから目標数値が上がるといっても、それを実現したところで何の意味もない。男女共同参画の計画なのだから、男女共同参画のために男性が集まることがどういった意味があるのか言えなければならぬ。

男性をたくさん集めること自体に意味があるのではなく、男女共同参画の問題についての集まりに男性をたくさん集めることに意味がある。

**(会長)**

魚沼市が主体的に行うものではなく、たまたま魚沼市でやったから人が来て、それに合わせて魚沼市も行ったので参加者が多かった、ということについては、あまり、魚沼市としての男女共同参画に向けた取組ということとは少し違うのではないかということか。

**(委員)**

もしそうだとすれば、ここに書かれている40人が、通常的人数で、目標値の125人という数字自体が違っている。指標としてはいけない。そこに男性が参加したからと言って、男女共同参画にとって何の役にも立っていない。だからこの数字のおかしさはそこにある。

**(委員)**

全く関係のない数字がここに出てきていることもあるので、これに限らず、ところどころはそうした数字もあると思われるが、そう言い始めると難しいところもあると感じる。

**(委員)**

どういった会合に、どのような人を集めるから男女共同参画の推進に役に立つのかということ、それぞれの部署が考えてもらって、そこに何人集めれば目標数値を達成して意味が出てくるという議論を、各課でもらわなければいけないと考える。

**(事務局)**

PTAへの参加については、一般的に男性があまり積極的ではないという前提があるので、男性が参加したPTAの催し物の参加者数をカウントすることそのものは、外れていないと感じている。

たまたま、全国レベルのイベントがあるために、それまでやってきた催し物をその年だけやらないということになり、数字が一時的に下がるにも関わらず、その数字を指標とするのがおかしいという指摘はその通りだと思う。

しかし、PTAの参加率自体は、指標としてそれほどおかしくはないものと考えている。それを計るための数字がこの数字ではおかしいが。

(委員)

そこに参加した魚沼市からの参加者の人数を当てても良いと思われる。

(委員)

そもそもPTAの会議への男性参加者が多いことに意味があるとするれば、なぜ普段PTAの会議に男性の参加者が少ないのかということについて、男性参加者を相手に講座を開くのでなければ、意味がないと私は思う。

どうして男性が参加しないのか、男性に対して意識啓発するのでなければ、男性の参加者が単に多かったということでは、意味がないと思う。

何のために男性参加者を増やしたいのかということが重要。

(委員)

そういった話になると、結局、男女共同参画は、根本的にどのような問題なのかということが話になってくる。

(委員)

そう言った議論がこの場で行われなければ本来はおかしい。

(委員)

庁内でただ書類を作るという意識しか働かないと、このような結果になるのではないのかと思う。

男女共同参画とはこういうものだからもっと積極的に啓発していこうという意識ならばまた変わってくると思われる。

(委員)

単にこれが計画に書かれた仕事だからこれだけ今年は講座をやるということだけでは、いけないと思う。

なんでそれをしなければいけないかを職員の皆さんが考えてもらわなければ困る。

(委員)

もう少し精神的な意識が進んでいる自治体があるとしたら、魚沼市はまだ、生まれてから幼稚園の年長位の感覚だと認識し、男女共同参画とは何なのか、魚沼市に当てはめた場合、どういうところが足りないのか、どういうところが出来ているのか、という辺りから話を始めた方が良いと思われる。

(会長)

計画を審議する会議とは別に、具体的な啓発や意識の改革を推進するための運動体のようなものを作っている自治体はある。



**(委員)**

このような会議で先進自治体への視察するようなことがある。この会議ではやっていないが、新潟市や三条市のような魚沼市と地域の条件の違う自治体ではなく、近隣の類似団体を対象に視察を行い、様々な話を聞きながら、魚沼市にどうやってそのノウハウを持って来られるか、また、今後魚沼市でそのノウハウをどのようにして育てていくか、どのような切り口でどこから始めたら良いか、魚沼市に合うものを取捨選択しながら最初からやり始めるというのも一つの方法かと思われる。

**(委員)**

社協から代表として出させてもらっているが、高齢者、特に障害者と仕事で関わっているので、こうした計画の中で高齢者や障害者の方々が住みやすくなるような事業が進められていくような議論ができればと毎回思っていた。

会議資料が送られてきて、自分の法人や障害者関係の施設職員と一緒に相談する機会を作り、話をした。その中では、高齢者や障害者について、こうした書類にはなかなか記載しづらい点もあると思うが、掲載される事業が増えると良いという意見があった。

また、性的マイノリティーに関しては、市内に多目的トイレがもっと増えると良いという意見があった。併せて、そうした分野の啓発活動が増えると良いと考える。

**(委員)**

男女共同参画という言葉に関係することだけで、これだけの事業があることが分かった。いろんな自治体を外から見ている方が、他の地域の上手くいっている良い事例を紹介してもらえると、事業を行う市の職員をはじめ、ここに参加する委員が、良いところは真似してみようという話になる。

齋木委員が言うように、魚沼市がまだまだ成熟していないのであれば、他市の良い事例を聞けばもっと刺激になると思った。

**(会長)**

本日は、どのような議論を予定していたか整理する。

これまで、平成 30 年度の計画案の審議をしてきた経過はあるが、それについては既に事業が動いており、辞めたりはできないが、今後の参考として、どのように事業を進めたらどうかという話是可以する。

問題は、平成 29 年度の実施結果で、これをどのように扱うかということになるが、平成 29 年度の結果を示す数字は確定しているので、今後、平成 31 年度以降の事業に、どのように活かして行くかという観点で皆さんからご意見をいただくことが、そもそも本日の会議の目的であった。

ただ、議論するにあたっては、事務局から示された資料では内容が不十分であって分かりにくく、資料が足りないという意見が出た。

実際問題、今年度は、今後そう多くの会議を開くわけにはいかないので、今日この場でこの出てきた資料をどのようにするか整理されなければ困ると考える。

改めてこの資料に詳しく内容を記載しなければいけないのか、補足資料を付けてもらうかご意見を聞きたい。

**(委員)**

この資料では何をやったのか判断できない。成果と言ってもどれだけのことが行われ何が実現したのか分からない。目標とそれを実現するために何をしたかということが記載されていない。

この表の書き方が、まず目標があって、それを実現するために何を実施し、その結果どうであったかという3本立てになっていないため、結果、何をしたのか分からなくなっている。

今後、追加資料を付けるなり、書式のあり方を見直すなり行っても良いが、最低でもそうした3本立ての内容になっていなければ、事業の実施結果に対する評価はできないものとする。

**(委員)**

それだとしても、担当の職員がここに集まり、実績をここで説明してもらえれば、今、資料は不要なのではないか。

**(事務局)**

個々の事業については、担当が来ているのでこの場で答えることができるが、この資料の取りまとめの仕方のことであれば、事務局から各担当に記載を依頼した際に、そこまでの内容の記載を求めなかったことから、全体的に必要ということであれば、資料を作り直す必要があるのではないかと思う。

そうすると、本日は資料の準備ができないため、大変お手数をおかけするが、改めて会議を開催することとなる。

**(委員)**

この件については、何年も前から何回も言っていること。今度こそやってもらいたい。それでなければ、ここで実りある議論ができない。

**(事務局)**

資料を作り直すのに若干の時間がかかるが、平成29年度の結果を活かすとするならば、最低でも平成31年度の予算編成時期までに間に合わせなければいけないので、なるべく早く資料を作成したうえで皆さんにお送りしたい。

**(委員)**

ここでの議論の結果をもって、次年度の予算要求をするための元資料として良いか裁可することがこの会議での目標なのか、また権限なのか。

この会議は何をするための会議なのか。

**(事務局)**

年度ごとの実績を評価してもらうことが、この会議の本来の意味である。

**(委員)**

年度ごとの実績を評価するという事は、様々な観点から議論するという事か、

それとも、役所に対して、ここがおかしいのではないかと言える権限まであるのか。

**(事務局)**

事務事業の評価としては、目標に対して達成できたかどうかということは内部評価で、すぐに出る。

それについて、委員の皆さん方には、「こういう理由で達成できなかったのではないか」とか、「達成そのものに無理があったのではないか」とか、「達成そのものが男女共同参画とどれほどの意味があるのか」というような、もう一段上のご意見をいただきたいというのが主旨である。

**(委員)**

それであれば、それが分かる資料を作してほしい。

**(会長)**

これまでの話をまとめると、仕切り直しという形になると思われる。

目標があって、何をやったかという実績があり、その結果、成果や評価がどうだったのかという形に内容を整理してもらうことになる。それをいただいたうえで、再度議論をもう一度行う。

**(委員)**

今回は、なるべく早めにデータを作ってもらい、委員の皆さんから意見を集め、特にこの点について会議で揉もうという合意を作った上で、建設的な会議を行いたい。

**(委員)**

例えば、29年度の事業で上手くいかなかった理由なども書いてもらい、平成30年度には、その対策となる内容を分かるように書いてもらえれば良いと思う。

**(事務局)**

現在の表の作り方としては、単年度の内容になっておらず、5年間の内容を書く形になっているため、説明欄が5年後のことなのか、29年度のことなのか分からず、不統一になっている部分もある。単年度の評価であれば、書き方を直さなければいけないと感じている。

**(委員)**

本日はこれまでとして、新たに本日と同じ内容の会を開催するということか。

**(事務局)**

本日、目的としていたことが資料不足のため議論に入れなかったため、そのようになる。

**(委員)**

そうしたら、5年ごとの目標はこれで良いとしても、単年度ごとの評価をどこかに分かり易く書いて、それに対する今後の方針も書いてもらえれば良いと思う。

**(事務局)**

具体的には、先進地のものを確認しながら検討したいと思う。

**(委員)**

私たち自体も男女共同参画の言葉をよく知っているが、その意味を説明してほしいと言われると説明ができないのが現状。

そのため、この会として先進地の事例の検証や視察等を行うことで、委員の見識も高まり、より良い会議につながると思うので、そうした取組も、今後、検討してもらいたい。

**(委員)**

一つだけ数字が違う箇所があるので確認したい。事業番号 39 番の市民相談事業の男性の相談件数の実績値が、平成 29 年度のところで、374 件になっているが、平成 30 年度の計画の方では 297 件になっている。どういった意味か。

**(市民課)**

374 件の方が正しいと思われるが再度確認する。

**(会長)**

議事の「(1) 平成 30 年度事業実施計画について」と「(2) 平成 29 年度実施結果(案)について」について、議論には踏み込めない結果となった。

事務局の皆さんには大変負担をかけるが、資料を作り直し、それができた段階で、もう一度集まり議論をするという形で整理させてもらいたい。

**4 その他**

**(事務連絡)**

- ・ 10 月 3 日の医療公社、女性財団との共催で行う男女共同参画の講演会「アンガーマネジメント～怒りと上手に付き合う自分になろう～」の開催のお知らせ。
- ・ 6 月 18 日の父の日に合わせて、「ワーク・ライフ・バランス」の啓発のため、商店街事業者で組織する「魚沼職人大学」と共同で行ったメッセージカード配布の取組の報告。

**5 閉会 (15:05)**